

平成30年12月12日

平成30年

第12回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

平成 30 年 12 月 12 日（水曜日）午後 3 時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
後 藤 貴美子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	

2 出席職員（10名）

教育総務部長	後 藤 清
教育総務課長	森 岡 剛
教育施設担当課長	石 井 信 一
副参事（教育政策担当）	北 村 操
学務課長	杉 山 良 樹
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	増 田 亮
副参事	田 井 俊 行
学校職員担当課長	池 一 彦
教育センター所長	柿 本 伸 二
大田図書館長	中 平 美 雪

3 日程

日程第 1 教育長の報告事項

日程第 2 部課長の報告事項

~~~~~  
(午後 3 時00分開会)

#### ○教育長

それでは、ただいまから、平成30年第12回大田区教育委員会定例会を開催いたします。  
12月11日をもって、芳賀委員の任期が満了になりました。それに伴い、12月12日付で、新たに深澤委員が区長から任命を受けたのでご紹介いたします。

深澤委員は弁護士としてご活躍されていらっしゃるほか、東京都建築紛争調停委員会委員、品川区法律相談員、財団法人品川区国際友好協会評議員選定委員会委員をお務めになっ  
ていらっしゃいます。

それでは、深澤委員から一言ご挨拶をお願いいたします。

#### ○深澤委員

このたび、教育委員に就任いたしました、弁護士の深澤と申します。よろしくお願  
いいたします。

私は弁護士として、事件で、離婚事件や面会交流事件なども多く手がけてきているので

すが、その中で、両親の不仲で一番犠牲になっているのは子どもだということを、常に実感しております。

そのような事件を手がけるときに何を心がけているかと申しますと、いかにその子が傷つかずに事件を解決できるかという観点です。この子が我が子ならば、どういうふうに対応すれば一番この子が傷つかないのかなという視点を、常に心がけております。

本教育委員会におきましても、そのような視点を心がけながら、臨みたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○教育長

ありがとうございました。深澤委員、よろしく願いいたします。

なお、大田区教育委員会会議規則第5条では、委員会の席次は会議に諮ることになっております。これまで委員歴の長い方及び年長者を上席とするということが慣例となっております。本日は、この慣例に倣い、お席を用意いたしました。このままでよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

続いて、本日は傍聴希望者がおります。

委員の皆様にも傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。どうぞご協力、よろしく願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しております。

まず、会議録署名委員に弘瀬委員を指名いたします。よろしく願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は、「教育長の報告事項」でございます。

## ○教育長

それでは、私から4点について報告させていただきます。

まず、1点目は、11月28日、第3回区議会定例会の代表質問でございます。代表質問につきましては、私立幼稚園の預かり保育など、9問の質問がありましたけれども、その中で私のほうから答えさせていただいた質問がございます。

質問の中には、現在の教育振興プランの評価、それから、今後の新しいプランについての進捗状況等についての質問がございました。現在の教育振興プランにつきましては、学力向上に関する指標など、ほとんどの指標が目標とする指標を上回っており、順調に成果を上げていること、また、新たなプランについては、新たなビジョンとして「未来をつくる力」をテーマに掲げるなど、順調に進捗していくことを報告いたしました。

それから、また、学校経営を教育委員会としてどのように支援するかという質問もございましたけれども、教育委員会といたしましては、全校長先生に年間4回のヒアリングを行って、個別に学校教育について指導・助言するなど、校長先生がリーダーシップを発揮して、特色のある学校経営が推進できるように支援しているという取り組みなどをお話させていただきました。

続いて、2点目ですが、12月1日に行われた嶺町小学校の開校70周年記念式典に参加させていただきました。嶺町小学校は、多摩川の土手に面しているところでございます。非常に自然に恵まれているといたしますか、学校の特色として、多摩川を利用した環境教育、そういうようなものを推進しています。実際に多摩川に入って、いろいろな生き物を見るなどの活動をしている学校です。

嶺町小学校は、3年ほど前に校舎が改築され、非常に新しくきれいになりました。体育館も広々としており、教室もオープンスクール教室もなのですけれども、そういう環境の中で、子どもたちが伸び伸びと過ごしている。やはり教育環境というのは、非常に大事な要素であるということを感じました。

式典の中では、校長先生が歌を歌いました。校長先生は、以前中学校の音楽の先生で、今は小学校の校長先生ですけれども、とてもきれいな歌で歌われて、式辞の中で歌を聞くのは初めてなのですが、温かい雰囲気伝わっておりました。

学校は、地域と共にある、地域が育てていただいている、その中で子どもたちがすくすく育っている、そういう状況を拝見させていただきました。

3点目は、12月26日に、清水窪小学校の研究発表会に行つてまいりました。この清水窪小学校は、サイエンスコミュニケーション科という特別なカリキュラムを編成しているところです。理科教育の推進ということですね。学校は大岡山駅の最寄りにございまして、近くにある東工大に行つてお話を聞いたりといった、東工大との交流が一つの特色なのですけれども、サイエンスコミュニケーション科を通して、科学の好きな子どもたちをどう育成するかということで、研究に取り組んでいます。

全クラスの授業を回つたのですけれども、1年の生活科では、象とかキリンとか、動物の持っている様々な能力といったものを教材化していました。それから、中学年では骨ですね。実際の骨を見たり、鳥の骨を観察するといった授業でありました。それから、高学年になると、水をどうきれいにするかといった環境に関わる実験しておりました。

教科書にない、こういうカリキュラムを先生方がつくり出すというのは、なかなか労力

と熱意がいることなのですからけれども、その労力と熱意が授業に結びついていて、子どもたちが一生懸命科学的な授業に取り組んでいるのは、大変印象的でした。

学力のほうもかなり上がってきているということで、ぜひ、清水窪小学校で取り組んでいる理科教育、サイエンスについての取り組みを、1校だけではなくて、大田全体に広めていけたらと思っております。

最後に、4点目は、12月8日、先週の土曜日になりますが、アプリコの大ホールで行われた小学校合唱・管楽器発表会というものです。これは、5校が合唱で発表して、あと20、30校近くの学校が管楽器、ブラスバンドの発表をしました。

実は、アプリコは非常に音響効果がよくて、嶺町小学校の校長先生が音楽部の部長で、ピアノを実際に弾いて見せてくれ、演奏の音のよさを感じたりしたのですけれども、とても響きのいい会場で、子どもたちが生き生きとすばらしい歌声や、立派な管楽器の音色を聞かせてくれました。

後藤委員の息子さんも発表しておりました。一生懸命歌っている姿が好印象的でした。

実はこの合唱や管楽器演奏は、授業でやっているわけではないのです。授業でやるものには連合音学会というものがあって、各学校の代表が出てくるのですけれども、こちらの発表会は中学校の部活動のようなもので、朝少し早く出てきて練習したり、放課後練習したりしています。

本当に、子どもたちはいい経験をしているな、小学校のうちからいろいろな楽器に触れて、一流のホールで演奏ができて、とても貴重な経験ではないかなと思っております。

今、教員の働き方改革が言われておまして、部活動であるとか、授業以外の教育活動については様々な意見もあるのですけれども、実際にこういう子どもたちの姿を見ると、そういう活動も大事にしながら、いかに学校の業務を効率化していくかは大きな課題であると思っておりますが、子どもにとってすばらしい体験は、やはり大事にしていきたいという思いを新たにしたところでございます。

以上4点について、ご報告させていただきます。ありがとうございました。

私からは以上でございますが、何かご質問、ご意見がありましたら、お聞かせいただければと思っております。

また、委員の皆様も研究発表会や周年行事へ出席もいただいておりますので、その感想などを伺えたらありがたいと思います。

では、後藤委員。

#### ○後藤委員

はい、後藤です。

私からの報告ですが、まず、11月24日に大田区立中学校PTA連合協議会の合唱祭に伺わせていただきました。大田区の中学校は28校ありますが、その中で24校が出演、他の4校はお手伝いをしていただくといった形で、28校全ての中学校が協力して開催された合唱祭ということでした。大変温かい会場でして、どの学校のPTAの保護者の方々も、日ごろの練習の成果を発揮できた、そんな会でありました。

今、小学校のPTA連合協議会の合唱祭が行われていない現状があります。やはり、小学校のPTAの方々も合唱はずっと続けていきたいという要望もたくさん耳にはしており

ますが、安易に始めるということは難しい要素があるので、また連合会の会長さんたちが会長会などで話し合いをしながら検討していくといった方向性もいいのかなと思っています。

今すぐ始めようということではなくて、始められる未来をつくっていく、今を過ごしていくことが大切かなと思っています。中P連皆様のご努力と共に大変すばらしい合唱祭でした。

次に、11月26日、ただいま教育長からお話もありましたように、清水窪小学校の研究発表会に伺わせていただきました。科学と理科という学習の違いや結びつきと連携の取れている学習の姿を拝見させていただいた印象でした。

理科と科学の学習の内容というのは、教科書に沿った理科の勉強と、そうでないサイエンスの勉強で、両方の学習を行っているといった他校にはない特徴をよく拝見できた研究発表会でした。

これも先ほどお話ありましたが、理科の学習評価が非常に上がっているということで、通常授業での理科学習と、サイエンス学習の結びつきが大きく反映されているということが、学習評価につながっているのではないかなと思いました。

また、子どもたちは、生き物を実際に扱ったり、見たりする経験の中で、低学年のサイエンスの学習では、例えば本物の象のふんを間近で目にした後、授業で同じ重さの造作物を持ってみる等、とても生き生きとした姿や、興味の持ち方が大変よくわかる授業展開が拝見できました。

高学年では、各班に分かれて震災時の避難所生活緩和方法や、樹木栽培で育ちの違いを研究する等、テーマに沿った学習成果を発表するという授業を行っていました。やはりそういったところでも、興味を持ったものを自分で選んで学習できるという環境をつくっている内容でしたので、子どもたちの学習に対する意欲と興味というところが、学習向上につながっているのではないかなと感じました。大変すばらしい研究発表会を見させていただきました。

12月1日には、嶺町小学校開校70周年の祝賀会に参列させていただきました。こちらは、校長先生が、先ほどの教育長のお話にあったように校長先生が音楽の先生ということで、ピアノを奏でいただきました。また、卒業生がバイオリン、現役の教員がフルート、そして保護者がバイオリン、校長先生がピアノといった構成の《嶺町小でカルテット》というメンバーで、祝賀会に華を添えていただきました。とてもすばらしい演奏で、参列している方たちは、皆さん大きな拍手を贈り、すばらしい演奏に包まれました。

また、嶺町小学校には、PTOという組織がございます。保護者、教員とOは卒業生の保護者を含む団体で、子どもが卒業しても学校のために力を添え、みんなで協力して子どもたちを育てていきたいと思いますといった活動を行っていることが、とても特徴的な学校だなと思いました。

やはり現役の保護者と卒業生の保護者が、皆さん一緒になって協働して物事を進めていくことを間近に子どもたちが見て育っておりますので、大人になっていく子どもたちの将来にも、大変有意義な活動ではないかなと思いました。このように、地域の方々に囲まれた小学校ですので、祝賀会もとても華やかで、楽しい、にぎやかな会となりました。

次に、12月8日、これも、先ほど教育長からお話がありました、大田区管楽器合唱合同

演奏会で、31校出演の中、合唱が5校と管楽器の発表でした。このとき、教育長とお話をさせていただいたのですけれども、合唱を発表している学校がちょっと少ないかなということが年々印象にあります。大田区は合唱に歴史の深い地域だということは、皆さんよくご存じかと思います。いま一度、合唱というところに目を向けて、今後、合唱を演奏できる学校が増えていくといいのかなというふうに思った次第です。

管楽器の演奏もとてもすばらしく、何年か連続で拝見させていただいておりますが、年々、楽器の種類が増えていたり、自身の楽器で演奏している等、楽器の手入れも充実している学校が多く見受けられ、嶺町小学校の祝賀会もそうだったのですが、音楽は全般的に、心を豊かにする要素をたくさん持っていると日ごろから感じていると共に、子どもたちが健やかに育つ中には、やはり音楽というのは、常日ごろ耳にしたり、手にしたり、自分で奏でるといった経験のできる環境が、一人でも多くの子どもたちにあるといいのかなと思いました。

毎年、大変すばらしい小学校音楽研究部の先生方の運営によって開催される会なのですが、今年は保護者の方々にもお手伝いしていただいたということで、子ども達にとって本当にすばらしい経験を積める会だなと思っております。

合同演奏会ということで、管楽器と合唱を皆さんに発表できる機会という点で、出演している子どもたち全員が互いに聴き合い、目にしている場面ですので、今後の子どもたちの成長と発展にもつながるとても良い会を開催していただいていると感謝致しております。私からは以上です。

### ○三留委員

三留でございます。私は、清水窪小学校の研究発表について、話をさせていただきたいと思っております。

清水窪小学校は、文部科学省の教育課程特例校ということになっていまして、この特例校というのは、学習指導要領によらない、教科等の組みかえによる教育実践が認められている学校。もちろん、大田区ではただ一つなのですけれども。これは、大田区の他の学校の発表とは大きな違う、特色になるのではないかなとっております。全国的にも、科学分野で特例を受けているというのは、さほど多くないと思っております。そういう意味では、大変注目をされている研究ではないかなと思っております。

サイエンスコミュニケーション科、SC科と称していましたがけれども、研究紀要には、SC科は、「ものづくりや課題追求を通して、生活の中にある身近な科学への疑問を体験的に解決する学習」と、示されているわけですがけれども、当日の授業実践とか発表を見ると、そういうことをしっかり意識して実践をしているなということを感じました。授業全般を見て感じたのは、やはり一人一人の子どもの発想を大事にして授業づくりをしているということです。

当然、清水窪小学校で行っているこのSC科というのは、他の学校では直接取り入れることはできないわけですがけれども、清水窪小学校でやっていた取り組みの中には、参考になる取り組みが数多くあると、私は思っております。

3点ほど、述べさせていただきます。1点目は、「清水窪学びの10のプロセス」というのを出していることです。丁寧な問題解決の過程をしっかりと踏んで学習していくという

ことで、子どもたちの論理的、科学的な思考力が育っていくと考えています。

先ほど教育長からも話がありましたけれども、4年生のほねほねムービングという授業では、「自分たちのつくったロボットを提案する」という、設定で、「スムーズな動きができていないか」という問題をつくり、タブレットを使って動画を撮り、その動画の動きから様々な気づきにつなげていました。5年の「電気エネルギーの未来を考えよう」という授業では、「自分たちで電気をつくることで何がわかるだろう」という問題に対し、実際に火力、水力、風力発電の実験を行って、新たな課題の発見であるとか、自分たちができることにつなげていくということをしていました。こういった過程を踏んでいくということは大変重要だなということ、授業を見させていただいて感じました。ただ、全体的に1時間でこの過程を全てやっていくというのは、なかなか難しい面も感じました。

紀要にも書いているのですけれども、単元レベルでこういった過程を踏んでいくとか、数時間で学習過程をつくっていくとか、そういった実践もこれから数多くしてもらいたいなと思いました。

2点目は、平成27年度から行っている単元ユニットという考え方です。新しい学習指導要領では、教科横断的な学びを行うために、カリキュラムマネジメントの推進を強調しているわけですが、この単元ユニットについては、カリキュラムマネジメントの一つの考え方として、注目されます。

紀要の中に、5年生のSC科の単元ユニットの例が示されています。「地球温暖化に迫ろう」とか、「電気エネルギーの未来を考えよう」という、単元と他教科の関連について示されているわけですが、全ての単元において、綿密な指導計画をつくる必要があるなと思いました。

今後は、教科を合わせるという意味での合科的な形の指導案づくりなども考えられるのではないかなと思いました。

3点目は、コミュニケーションとしての対話活用の手だてを考えていることです。指導案の全てに、「自然事象との対話」「児童相互の対話」「学級全体との対話」が活動の手だてとして示されています。紀要にある「授業づくりの基本」の一つに、「協働でコミュニケーションを図りながら問題解決に取り組むこと」とありますが、相互に折り合いをつけながら、自分の意見を出して、新たなものを創造していくという、そういう学習が、これから、重要になると思っています。

当日の授業を見ても、子どもたちがほかの意見を取り入れながら、グループまたは個人の考えを深めていくような様子が見られました。こうした相手意識を持った活動というのは、表現力を磨く、ことにもつながっていくのではないかなと考えています。

6年生が、「自然災害から身を守る」という単元で、大変的確で堂々とした発表をしていたのですけれども、こういった日ごろの協同的学習で、力量を磨いてきたということも、一因としてあるのではないかなと感じました。

清水窪小学校の研究発表について感想を述べてきましたが、我が国が「科学技術立国」の推進を目指していること、また、大田区が「ものづくりのまち」として一層の発展を目指していることを鑑みた場合、大変注目すべき研究実践だったのではないかなと感じます。

今後、よりよい教材の開発、時数や、場合によっては教科等の組みかえの再検討しも視野に入れながら、大田サイエンススクールとして、科学技術にかかわる教育活動の先進的



な取り組みを続けてもらいたいと考えております。

以上です。

#### ○高橋委員

高橋です。清水窪小学校の研究発表会に行つてまいりました。

理科と科学というのは、好き嫌いがとても分かれる教科なので、サイエンススクールにはとても関心を持っていたところです。

実際に動物園に行つて、飼育員の方からお話を聞いたり、外部講師の方から専門的な解説を聞いたりして、詳しく、興味を持ちながら学習しているという感じを受けました。授業は3人組で行つており、実験の結果をまとめたり、コミュニケーションをとりながら、みんなが関わっているという授業でした。高学年は、やはりサイエンススクールの経験、SC科の経験が長いですし、発表もしっかりしているなど感心して見ていたところです。科学が大好きな子どもが育っていることを実感して帰りました。

もう一点ですが、小学校の音楽会の参観に行つてまいりました。どの学年も、合唱と演奏をしていましたが、力強く声も出ていましたし、迫力ある音楽会になっておりました。

その中で、1年生が歌詞を英語で歌っていました。外国語教育を取り入れていることを感じたところです。

元気になって、幸せな気分で帰りました。

#### ○教育長

よろしいでしょうか。

続いて、次の日程に移ります。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○事務局職員

日程第2は、「部課長の報告事項」でございます。

#### ○教育長

それでは、部課長の報告をお願いいたします。

#### ○指導課長

資料、平成30年度第7回小学生駅伝大会報告をご覧ください。

第7回小学生駅伝大会を、12月2日、日曜日に開催いたしました。昨年度までの会場である大田スタジアムが改修工事のため、都立つばさ総合高等学校のグラウンドや敷地をお借りし、特設周回コースを設定して開催をいたしました。当日は、大きな事故やけがもなく、母校への思いと自校のたすきをつなぎ、これまでの練習の成果を存分に発揮することができた大会となりました。

記録をご覧ください。会場は違うものの、昨年度までと同じ距離を今大会も走っておりますが、多くの学校がタイムを縮めております。例えば、昨年度第6回大会の第1位のタ

タイムは32分17秒でございました。32分を切ることは難しかったこれまでの大会でございましたが、午前・午後合わせて10校が32分を切り、嶺町小と徳持小は30分台というように、大会新記録が複数出た大会となっております。よく見ていただきますと、午前も午後も、第1位と第2位のタイム差が1秒でございまして、大接戦だったこともわかります。

裏面、会場を先にご覧いただきます。また、上位校と下位校のタイム差が縮まっているのも、今大会の特徴となりました。タータンという材質でできている、公式記録もとれる陸上競技用のトラックをお借りしての今大会、走りやすさも記録のよさにつながったのではないかと考えております。

さらに、これまでの大田スタジアムでは、遠くスタンド席から選手を応援していたわけですが、今回は、トラックのすぐ外側に応援エリアを設けました。応援した保護者からは、子どもが目の前を通ったので、直接声を届けられてよかったとの感想もいただいております。すぐ近くで応援されたこともあり、親の期待に応えたいとする選手の頑張りも、好記録につながったのではないかと想像しております。

表面に戻ります。協力をご覧ください。大会の準備や運営は、小学校長会をはじめ、区教研小学校体育研究部並びに小学校養護教諭部会の先生方にもご協力をいただきました。

また、大森第七中学校、南六郷中学校の陸上競技部の皆さんには、補助役員として伴走にご協力いただきました。伴走をよく見ると、最後尾の学校の選手の後ろではなく、横に寄り添って走っておりましたが、恐らく、「大丈夫」「慌てないで」「頑張れ」などと声をかけていたのではないかと想像しております。

東調布中学校、大森第十中学校のチアリーディング部も、開会式での応援で大会を盛り上げていただきました。

小学校PTA連絡協議会には、会場周辺のご案内や来場者の誘導にご協力いただきました。都立高校をお借りしたこともあり、応援エリアや自転車置き場、トイレへの案内、喫煙者への注意などをお願いしたところでございます。応援エリアを1日見ておりましたが、皆さん、ルールとマナーを守って応援していただきましたし、喫煙者も自転車を放置する方もおらず、ごみも落ちていなかったということでございました。事前周知が徹底されたのと、当日、各校のPTA会長さん方が巡回してくださったことが功を奏したと考えております。

大田区政70周年記念キャラクターはねびょんも全日参加し、ロードレース、駅伝競技の最中、選手の応援をし続けてくれていました。

各小学校では、小学校駅伝大会をきっかけに、全校マラソン月間・週間などの設定をしていただいております。

駅伝というレースである以上、どうしても順位が気になるわけですが、大規模校、小規模校、さらには、校舎改築のために校庭が狭いなどと、学校によって様々な状況がございます。順位以上に、代表選手全員が一生懸命走り切ったことをたたえ、昨年度の自校のタイムを縮めることができたかを視点とする必要があると考えておりますが、いずれにしましても、本大会は区全体の体力向上につながる事業となっております。

また、本年度の中学生「東京駅伝」大会、中学生の駅伝大会の大田チーム42人中30人、7割以上の選手が小学校駅伝大会の経験者でございました。確実に区としての体力向上の

取り組みが、小学校と中学校がつながっていることも実感した大会でございました。  
私からは以上です。

#### ○学校職員担当課長

私からは、読書学習司書の業務及び活動状況調査についてのご報告をさせていただきます。

読書学習司書は、学校図書館法第6条第1項によりまして、学校司書に位置付けられ、その設置につきましては努力義務とされております。大田区では、本年度、区内小中学校全校に配置を決定いたしましたことは、前回の定例会でご報告をさせていただいたところ  
です。

それでは、お手元の資料をご覧くださいと思います。

まず、制度についてですけれども、読書学習司書の職務内容は、司書教諭の補助者として、学校図書館の庶務の役割に、学校図書館を活用した教育活動の企画等の役割を追加いたしました。学校支援団体や区立図書館司書と連携をいたしまして、ご覧いただいている以下の業務を行い、学校図書館の円滑な運営に資するというものでございます。

その具体的な内容ですけれども、経営企画業務といたしまして、例えば読み聞かせ、ブックトーク等のイベント企画といったものがございます。また、指導業務といたしましては、教員等への働きかけ支援や調べ学習等の指導といったものがございます。

次に、啓発活動業務といたしましては、読み聞かせ、ブックトーク等のイベントの実施といったものがございます。管理業務といたしましては、普通の図書館と同様、書架の整理等がございます。

そして、勤務条件等についてですが、身分は、地方公務員法の非常勤職員ということになってございます。任用資格につきましては、司書または司書教諭の資格を有する者として、資格を限定して採用しております。勤務条件は、1日5時間、週3日、年間35週ということで、延べ105日の勤務になります。

続きまして、第2項の配置状況についてですけれども、配置計画は、平成28年度から本年、平成30年度の3か年計画で、区内小中学校87校へ各1名の配置を行いました。資料の第2項のとおりでございます。

そして、資料の裏面をおめくりいただきまして、第3項の配置の成果でございますが、まず初めに、開館状況といたしましては、今年度の4月までの配置校のうち、小学校で33%、中学校で48%の学校で開館時間帯が増えてございます。特に小学校は、中休み及び昼休みが、ともに週5日開館するようになった学校が、48校中25校から33校に、8校、およそ16.7%増えてございます。

続きまして、読書学習司書の配置前後の図書の貸出冊数の状況でございますが、平成29年5月以降に配置をいたしました学校における配置前後の貸出冊数は、その平均で1.3倍、約30%伸びてございます。中でも、割合の大きい学校、小学校では馬込第三小学校、こちらのほうが月平均で1,153冊から1,688冊ということで、約1.5倍伸びてございます。そして、中学校におきましては、大森第六中学校が316冊から490冊ということで、約1.6倍伸びてございます。

また、平成29年4月以前から配置されている学校におきましては、配置後の2カ年の

比較においても、貸出冊数が平均で1.2倍、約20%伸びている状況です。こちらも割合の大きい学校といたしましては池上小学校、426冊が862冊ということで、およそ2倍に増えてございます。中学校におきましては大森第二中学校、131冊が284冊ということで、153冊、大体2.2倍の増ということになってございます。

次に、読書に関するイベント等の実施状況ですけれども、読書学習司書の配置によりまずブックトーク、読み聞かせ、レファレンス、授業支援、そして、学校図書館の利用指導、こちらはオリエンテーションとも言いますが、各項目におきまして実施回数が増加いたしました。特に、オリエンテーションが実施されるようになった学校が多くなりました。

そして、分野別評価といたしまして、読書の推進及び授業・学習支援と、大きく二つに分けてございます。

まず、読書の推進においては、書架の整理、破損や新着図書など図書の処理、貸出手続などの学校図書館の管理運営面において、「できている」または「おおむねできている」と評価している学校が、読書学習司書の配置前においては、小学校が33%、中学校が38%でしたが、配置後においては、小学校が91%、中学校が98%ということで、およそ60ポイント増加をいたしました。

また、授業・学習支援においても、児童・生徒へのオリエンテーションを通じた図書館案内や読書活動の企画・実施、調べ学習の支援、学習指導支援については、「できている」または「おおむねできている」と評価している学校は、読書学習司書の配置前においては、小学校が20%、中学校が19%でしたけれども、配置後におきましては、小学校が79%、中学校76%ということで、こちらもおおよそ60ポイント増加をしてございます。

そして、最後になります。このような調査結果を受けまして、今後の課題についてでございますが、読書学習司書は、これまで3か年計画により配置を行ったことから、区内全校配置が完了した現時点におきましては、学校によって配置時期が異なることから、読書学習司書によりまず読書推進や学習支援の活動状況には差がございます。

また、学校図書館の管理運営面では、配置によって大幅に改善いたしましたが、授業支援・学習支援に関しましては、読書学習司書の経験の違いや司書教諭または教員の意識などの違いによりまして、いまだ十分な連携が図られていないと思われる学校もあり、学校間の較差がございます。

これらの差をできる限り解消していくために、まず一つ目ですが、読書学習司書が互いに知識を高められるように、情報共有の機会を含めた様々な研修を、引き続き教育委員会で企画・実施することが必要と考えているところでございます。

そして、二つ目といたしまして、司書教諭や教員が読書学習司書と連携し、学校図書館を利活用した授業や学習に意識が高められるよう、教育委員会や学校全体で啓発活動を行っていくことが必要不可欠と考えているところでございます。

以上、ご報告させていただきました。

## ○教育長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの報告につきまして、ご意見、ご質問はございますでしょうか。駅伝には、私は午後から行ってまいりました。

会場のつばさ総合のグラウンドは、正式なタイムをとれる、公式のグラウンドだということで、そこを使わせていただいたことが、割と好記録につながったのかなと思っております。ただ、初めての会場だったもので、会場の運営であるとか、担当の方はご苦労もあったかと思えます。小学校のPTAの会長さん全員が、警備などについていただいたというご協力の体制もありました。

駅伝は、日本で生まれたスポーツで、100年ぐらい歴史があるのですけれども、箱根駅伝も大田区を通りますし、何とか駅伝の文化が、スポーツ文化が大田で根づいていくといいのかなと思っています。

駅伝大会で走るのは、選手の子どもたちだけですけれども、大会に向けて毎日全校で走ったりとか、長く走ったりというのは、大田区の子どもたちの体力向上という意味では非常に価値があるのかなと思えます。運営のほうは大変な部分もありますけれども、体力向上の一つの大切な取組であると思えます。

大田スタジアムが新しくなると、また会場のほうも大田スタジアムに戻る可能性もあるということです。

あと、読書学習司書につきましては、学校職員担当課長の報告のとおり、非常に成果が大きかったと思えました。貸出数が1.3倍伸びるということは、それだけ多く本を手にする機会が増えたということかと思えます。また、授業で学校図書館をどう使っていくかということが課題になってくると思うのですけれども、ますます利用していただければと思っています。

#### ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

12月2日、第7回の小学校の駅伝を見学させていただきました。前日と前々日はとても暖かい日でしたが、当日は曇り空で寒くて、時より太陽が顔を出して暖かいなと感じる、そんな1日でした。チアリーディング部の応援も素晴らしく楽しませていただきました。

都立つばさ高校のあの大きなグラウンドを見て、びっくりした子どもたちも多かったのではないのでしょうか。けがをしないように、今までの成果が十分発揮できればいいなと祈りながら応援させていただきました。この小学校の駅伝大会には今回グラウンドを提供していただきました都立つばさ高校の関係者、PTA、消防関係者、医療関係者など多くの方々のご協力をいただいて開催されていることを改めて感謝いたしました。

以上です。

#### ○後藤委員

後藤です。

私も、小学生駅伝、午前の部に参加させていただきました。子どもたち、みんなとてもよく頑張っていた駅伝だなという印象を持ちました。

その中でも、学校によっては前日が周年行事で登校、また、学校公開日で登校といった学校が数校あったかと思えます。ですが、先生方、保護者、もちろん選手の子どもたちが、そういった中でも、お休みのない中でも次の日が駅伝ということで、みんなで頑張ろうといったような一体感が生まれているような学校を目にした場面もありました。

そういった背景の中で、やはり上位入賞している学校もありましたので、子どもの頑張りというのは、やはり環境と、それから応援と独自の頑張りどころというのですか、踏ん張りどころというのが、とても多く発揮できるのはとても素晴らしい子どもの特徴だなというふうに思っております。

これからも、そういった子どもたちが伸びやかに育つような環境とサポートを、みんなですていけたらいいなというふうに思っております。

また、都立つばさ総合高等学校では、大変立派なグラウンドをお借りして、今回初めて駅伝ができたということで、本当に協力していただいた学校や団体、東京消防庁の方々、それから、東邦大学の医療センターの看護師の方々にもご協力いただいたことを、とても感謝して、大変ありがたく思った、そんな駅伝でした。

また大田スタジアムに戻った際にも、そういった周りの方がたくさん協力していただいて、そして、みんなで頑張りようというような気持ちがたくさん込められている駅伝なのだよということを、子どもたちにも伝わるような駅伝が開催されることを願っております。

私からは以上です。

#### ○高橋委員

高橋です。

駅伝大会については、地域に住む方が、毎日一生懸命熱心に練習している姿を見ていて、前日も行事があったのですが、そういうときも朝一生懸命練習しているから、私も応援に行きますという声を聞いて、私も絶対に見たいと思って参加しました。

やはり、12人がたすきをつないでいくということは、連携感もできますし、素晴らしいものだと思います。それに加えて、ロードレースで駅伝に出られない子どもたちも走ることができたということは、とてもいい経験をしたと思っております。

寒かったけれども、熱気あふれる大会でした。ありがとうございました。

#### ○深澤委員

深澤でございます。

今日初めてなので、行事には参加していませんけれども、報告事項でございました読書学習司書は1校1名配置と言う点についてお話をさせていただきます。高学年になればなるほど読書離れをする子が多くなっていくと思います。お稽古や自分の趣味が広がってしまって、なかなか本を借りに行こうとか、読もうという機会が減ってしまうのではないかなと思うのです。その中で、司書さんが1校に1名配置されたことで、非常に本の貸出数が伸びているということは、司書さん方は、子どもたちへの働きかけを非常に工夫をされているのではないかなと思いました。

あとは、教員への支援もなさっているということなのですからけれども、かなり工夫されてやられなければ、ただ司書さんが入っただけで貸出数が伸びるとか、本を読む子が増えるということはないので、そこには敬意を表したいと思っております。

今後ますますご活躍いただいて、読書好きの子どもがどんどん増えていけばいいなと思っております。

以上です。

○教育長

ほかに意見はよろしいでしょうか。

それでは、これもちまして、平成30年第12回教育委員会定例会を閉会といたします。

(午後 3 時52分閉会)